

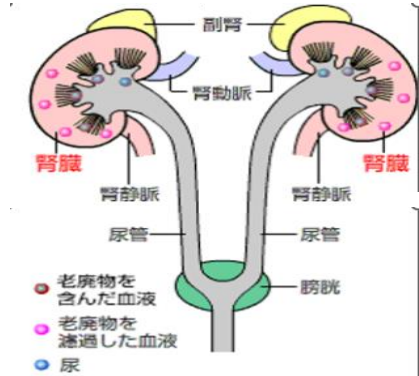
介護職に必要な病気の知識とケアのポイント

腎不全/透析

日本国内で透析を受けている方は、**34.9万人**
(2021年12月末現在)

1. 腎臓の役割・機能とは？

- ①尿の生成・老廃物の排泄
➡尿毒素の蓄積→尿毒症
- ②水分・電解質バランスの調整
➡体のむくみ、酸性に傾く、高カリウムによる不整脈等
- ③造血に必要なホルモン産生（エリスロポエチン）
➡貧血進行
- ④ビタミンDの活性化・骨代謝
➡低カルシウム血症、骨がもろくなる
- ⑤血圧を調整ホルモン（レニン）
➡高血圧



2. 透析療法が必要となる腎機能の目安とは？

◆透析導入となる頃は、概ね残腎機能は15%程度となっており、血液検査の目安としては、Cr(クレアチニン)8.0 mg/dl以上推算 eGFR が15ml/min 以下
(上記検査結果よりも腎機能が低い場合でも、全身状態を加味して透析が導入されることがある)

腎機能(目安)	症状	検査所見	必要な処置
90%以上	ほとんど無し	蛋白尿・血尿・高血圧	定期的検査
60~90%			一度は腎臓専門医受診
30~60%	むくみ	上記 + クレアチニン上昇	腎専門医によるフォロー 腎不全進行抑制の治療
15~30%	上記 + 易疲労感	上記 + 貧血・カルシウム低下	透析・移植の知識取得 腎不全合併症の治療
15%未満(末期腎不全)	上記 + 吐気・食欲低下 息切れ	上記 + カリウム/リン上昇 アシドーシス・心不全	透析・移植の準備 10%以下の腎機能では 透析開始・移植施行

◆慢性腎不全という目安は、Cr(クレアチニン)2.0 mg/dl 以上、推算 eGFR が50ml/min 以下

※Cr 値は、筋肉の代謝でできる老廃物の量を示す数値で、男性0.6~1.0、女性0.4~0.8 mg/dl 程度が基準値となる。この値が高いほどよくない状態を示す。

※推算 eGFR(糸球体濾過量)値は、腎臓にどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示しており、この値が低いほど腎臓の働きが悪いということになる。正常な場合、100ml/minと表すためもし、80ml/minであれば正常と比べて腎機能の働きが80%に低下しているということになる。60ml/min 以下で何らかの腎臓病があるとされる。

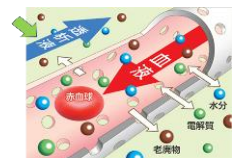
◆一定のラインを越してしまえば、回復の見込みがなくなる不可逆的臓器である

3. 透析療法の種類について

◆透析療法には、血液透析と腹膜透析がある

血液透析：機械で直接、血液中の老廃物などを排出する(週3回の通院で実施)

腹膜透析：腹膜を利用して血液中の老廃物を排出する(自宅で実施)



4. 透析治療で改善できること、できないこと

◆透析で改善できること ➡ 尿の生成・老廃物の排泄、水分・電解質バランスの調整

※平均的透析時間は4時間/日だが、5~6時間と長く受けると生命予後にも大きく影響する

◆透析で補うことは難しいこと ➡ 注射薬や経口薬（エリスロポエチン、活性型ビタミンD、降圧薬）にて補給し、貧血・低カルシウム血症・高血圧に対応する

5. 助成制度と保険

医療費として血液透析は約 40 万円/月かかる ⇒ **公的助成制度の利用**

医療保険 高額療養費制度	特定疾病療養受領証を取得すると医療費の自己負担上限が所得に応じて1~2万円になる。
自立支援医療 (更生医療・育成医療)	身体障害者手帳 を取得して手続きすることにより、医療費の助成が受けられる。所得によって自己負担限度額が設けられている。
障害者医療費助成制度	身体障害者手帳を取得している人が医療を受けた時、医療保険や自立支援医療の自己負担分を助成する。

◆身体障害者手帳取得により受けられるサービス

- ・税金の免除
- ・特別障害者手帳、児童扶養手帳の受け取り
- ・交通機関の料金割引
- ・駐車禁止区域での駐車許可証の発行

◆介護保障・介護保険

- ・65歳以上または40~64歳で特定の疾患がある方は、申請し認定を受けると介護保険サービスを受けることができる。サービス利用料の1~3割が自己負担となる。

6. 透析療養者への支援のポイント

◆導入前・導入期 (透析開始後の生活がイメージできない、透析に対する受容・否認・抑うつ・先が見えない不安など様々な感情が入り混じる。透析を受けるにしたがって体調がよくなっていくことを実感し始める)

- ・透析に対する不安・思いを聴き、受け止め、家族と一緒に考えよう
- ・患者の年齢・性格・社会的役割・生活史・家族関係・経済状況を把握しよう
- ・ニーズ優先、指導は後回し(覚えられない)やってみようと思える状況を作る

◆維持期 (~15年) (透析生活が安定する、生活が軌道に乗る、合併症が発現しやすい)

- ・食生活・日常生活管理の内容を確認、ライフスタイルや役割に変化を理解しよう
- ・誤った理解・習慣に気付こう
- ・自己管理の指導や社会復帰の支援

◆長期透析患者 (長年の習慣から自己流の管理になっており様々な合併症・重症化が起きる時期、社会生活・家族構成の変化など環境の変化により不安が強くなる、日常生活への影響が出る時期)

- ・自己管理方法を修正することはなかなか困難
- ・患者の良きパートナーとして、支援方法を見つけよう
- ・本人が生きがいをもって生きられるように

◆高齢透析患者 (心身の機能低下が顕著になる、老々介護や家族の負担が増える、理解力低下や認知症の出現、通院に関する身体的・経済的問題の出現、入院が頻回となるなど)

- ・何が一番問題なのか情報収集
- ・介護認定の申請、介護保険の利用、区分変更
- ・患者と家族の負担軽減をサポート
- ・多様な生活史、価値観がある個別性を尊重
- ・意思決定支援

◆ポイント

1. 日常生活をイメージする

- ①ADL、通院できるか ②家族や協力者がいるか ③食事はとっているか ④介護認定の申請はしているか ⑤かかりつけ医がいるか、在宅医療が必要かどうか などから考えてみよう！

2. その人らしい生活を送るための支援 (その人を知ることが重要)

- ・①健康の維持 ②生きがいを持つ ③役割を持つ ⇒ QOLの向上
- ・その人の価値観や背景、環境(人的・物的を含む)などをとらえ、その人に寄り添った支援が大切(何を大切に思い、どう生きていきたいのか)

自分らしい生活を送る

QOLの向上

3. 多職種連携

- ・顔の見える関係で
- ・自身のできることを提案し
- ・プロフェッショナルとして
- ・元気を与えて
- ・相談し合える関係で
- ・こうなればいいなを共有し
- ・魅力的な仕事をして
- ・人の生活を支える

それぞれの職種の特色を生かし、連携し合うことで、療養者を多角的に支援することができる。

多職種連携の意義